

(当センター事務局が公表資料をもとに作成)

総合資源エネルギー調査会長期エネルギー需給見通し小委(第1回)の配付資料概要 ～地球温暖化関連分～

同委の配布資料3「エネルギー基本計画の要点とエネルギーを巡る情勢」から、地球温暖化関連部分のみ抜粋。

- △ 日本の温室効果ガス排出量は、東日本大震災以降、増加傾向が続いており、13年度の排出量は1,395百万t-CO₂、1990年度比で約11%増加しました。そのうち、エネルギー起源CO₂は1,224百万t-CO₂となり、過去最高でした。電力分は、原子力発電代替による火力発電焚き増しにより、10年度比1.1億t増加しています。
- △ 各国別の温室効果ガス排出量シェア(2010年)をみると、中国22.9%、米国13.8%、EU10.2%、インド5.8%と続いており、日本は2.8%です。また、直近10年間の増加量平均は2.2%/年であり、これは途上国の排出増によるものです。特に中国の排出量は90年比2.8倍、インドは2.1倍、これに対して日本は8.8%増、米国4.3%増です。
- △ GDP1ドル当たりの排出(2010年:kg-CO₂/ドル)を見ると、中国2.64、インド2.22に対して、日本0.29、米国0.48です。一方、人口1人当たりの排出(2010年:t-CO₂/人)では、中国7.9、インド2.3、これに対し日本10.6、米国20.4です。
- △ 世界のCO₂排出量は、2040年に2012年比約1.2倍に増加する予定です(316億t→380億t)。日米欧等のOECD諸国分は減少する一方、中国、インド等非OECD分が増加し、全体の約7割となります。

以 上